



## ◇ 第4回さくら塾「法制度からみた尊厳死と安楽死」(大野正博・朝日大学教授)

日 時: 8月10日(木) 13:30 ~ 15:00

講 師: 大野正博先生(朝日大学法学部教授、法学部長)

テーマ: 「法制度からみた尊厳死と安楽死」 参 加: 生徒10名

死が迫っている人の肉体的苦痛を緩和・除去し、安らかに死を与える安楽死。回復の見込みのない末期患者に対して、生命維持装置を外して治療を停止、人間らしい尊厳のある死を迎えさせる尊厳死。安楽死と尊厳死は、法制度からみると何が異なるのか。法学者の観点から、わかりやすく説いていただきました。



### <参加した生徒の感想>

■私は今回の話を聞いて、人命はとても尊いものだから簡単に「安楽死を認める・認めない」を決めることはできないと思いました。はじめは認めてもいいと思っていたけど、安楽死を認めることによって生命の抹消を正当化することになると聞いて、認めてはいけないのではないかなと思うようになりました。人間らしく生きることは大切だけど、人によってその考え方は異なるので、他者がその人の生死を決めることは難しく、これから身寄りのない高齢者が増えていく日本では、とても難しい問題だと思いました。

■難しい内容のお話でしたが、とてもわかりやすく説明してくださり、理解することができました。SGHの研究で今の私たちだからこそできる提案を出せるように、今日学んだことを生かして考えていきたいです。また、私は医療関係の仕事に将来就きたいと思っているので、もっと調べてみたいと思いました。このお話を聞いてみても、安楽死や尊厳死を認めるべきなのかそうでないのかまだ、決めることができませんが、自分なりに答えを出してみたいです。

■今日の講話を聞いて、安楽死と尊厳死の違いについて以前よりもはっきりとわかるようになりました。話を聞いて私は安楽死を法律で認めるのは適法だと考えましたが、やはり違法ではないかとも思いました。患者自身が死を選ぶ権利はあると思うし、安楽死という行為は一種の治療行為と考えたからです。しかし、命より大事なものは無いという考えからすれば、「生きるに値しない生命」「生命の抹殺の正当化」は、殺人ととらえられてもおかしくないということになります。

精神的苦痛での安楽死を認められないのはなぜだろうと思っていましたが、精神的苦痛で安楽

死を良いとした場合、客観的にその判断をするべきか難しいし、医者にも抵抗があるということがわかりました。これから、その場面ごと考え方も変わりますが、今日の講話を SGH の研究に役立てていきたいです。

■今日の話聞いて、とても難しい話題だと感じました。まだ日本では積極的安楽死は許可されてないけれど、仮に了承されるようになったら、厳しい法による規制が必要だと強く感じました。けれど、人の価値観を客観的に文章にすることは難しいとも痛感できたので、これから私たちが考えていかななくてはいけないと思いました。

■私は前日までこの講義に参加する予定はありませんでしたが、学年主任の先生のお誘いで講義を受けることにしました。今では講義を受けてよかったと思います。それは、SGH の研究や自分の進路に対するものだけでなく、それ以外に得たものがたくさんあったからです。私は理系クラスに所属していますが、前までは法律にも興味がありました。今回のお話というのは、理系分野も文系分野も混ぜたような内容だったので大変興味深かったです。

私がこの講義を受けて思ったことは、「統一性ある倫理観がない場合でも、判断しなければならぬ場合があり、それはとても難しい」ということです。世界規模で見ると、国ごとにも尊厳死を認めているか、そうでないかが分かります。さらに、国内でも個人で考え方や宗教も違うので、人によっての価値観の差があります。医師も一人ひとり考え方が違います。個人というのは大切であるけれども色々な線引きが難しいと思いました。また、講義の中に、肉体的苦痛と精神的苦痛の違いが出てきましたが、そのふたつは紙一重なのではないかということも思いました。

ひとつだけ言えることは、患者だけの意見で死を決定することは難しいということです。結論を出すことが難しくても、他の人の意見があつてこそそのインフォームドコンセントだと思うので、自分の意思を相手に伝えることが大事なのではないかと考えました。また、自分の存在表明は自分の言葉から始まるのだと改めて思いました。難しくて完全に理解できたかと聞かれるとそうではないけど、色々考えさせられるものがありました。本当にありがとうございました。

■重い内容ということもあり難しいお話でしたが、補足説明や質問した分からない所などを説明して下さったおかげで、法から見た場合の問題点、地域による価値観の違いをどう克服すべきかがよくわかりました。また、実際の事例をもとに、これからの保険制度のあり方も考えるべきだということなどは、私たち学生ではなかなか考えつかないものだったのでとても勉強になりました。これからは、いろいろな視点から尊厳死のこれからについて考えられるように頑張ります。ありがとうございました。

